

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(2/6)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京都市地域活性化総合特区 (京都市、京都府)	4.1	進捗度 ・再来訪意向及び紹介意向 74% ・年間観光消費総額 100% ・特定伝統料理海外普及事業における外国人料理人の延べ受入れ人数 131%	規制の特例等 ・特定伝統料理海外普及事業等 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・京町家まちづくりファンド等	4.0	・評価指標(1)「再来訪意向及び紹介意向」について、目標未達ではあったが、混雑緩和への様々な取組は評価。ビックデータを活用した分散化等の施策は全国の模範となる。ただし、目標達成には混雑緩和だけでは十分とは言えず、来訪客が不満を抱いた事項の詳細な分析と対応が不可欠。 ・評価指標(2)「年間観光消費総額」について、額自体は目標をほぼ達成しているが、費目別の把握、分析及び目標設定が必要。これらを来訪客の来訪目的、滞在日数等と関連付けるとさらに効果的。消費額は京都の伝統産業と関連した拡大となることが重要。 ・「外国人料理人の受入れ」について、実績が上がり、関連事業との積極的な連携や拡大方向の姿勢を高く評価。料理人の帰国後もよくフォローされている。中長期的に食分野の消費額拡大への貢献度が測れればなおよい。 ・他都市と一線を画する質の高い取組が行われており、評価できる一方、新型コロナウイルス感染拡大により今後の取組を考え直していく必要がある。今後は、観光消費額を費目別に把握・分析したうえで、付加価値をさらに向上させていくことが必要。